

【短報】神奈川県におけるルリカミキリによるセイヨウベニカナメモチへの加害例

ルリカミキリ *Bacchisa fortunei japonica* は、果樹、園芸品種を含む広くバラ科植物を寄主とすることが知られており（武田，2007；新井・日下部，2008；小島・中村，2011），33種が記録されている。神奈川県内では、低地部の雑木林周辺のカマツカ（別名ウシコロシ）*Pourthiaea villosa* などから確認されていたが、都市化に伴ってその生育環境が衰退し、県レッドデータ生物調査報告書において絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている。一方、公園や緑地、庭などに植栽されているカナメモチとオオカナメモチの園芸雑種であるセイヨウベニカナメモチ（レッドロビン）*Photinia glabra* × *P. serrulata* で近年本種による加害が頻繁に確認、観察されているが、その寄主植物としての記録は少ない。筆者は神奈川県内の3箇所下記のように幼虫の加害と、成虫およびその後食を確認しているため、寄主植物と分布資料として記録しておく。

[採集，確認データ] 厚木市船子（東京農大キャンパス内）：被害木，15. XI. 2009，日下部確認。横浜市都筑区荏田南：幼虫および被害木，2. I. 2010，日下部確認；4♂，3♀，29. V. 2010；大木裕・日下部採集。横浜市緑区長津田町：被害木，5. V. 2011；岩田隆太郎・日下部確認。

ルリカミキリの幼虫は主幹部もしくは、そこから派生する太い部位を加害し、その食害痕は顕著で、樹皮下から繊維状の木屑が噴出しているため、明瞭に確認できる（図1）。また、同じセイヨウベニカナメモチを加害するリンゴカミキリ *Oberea japonica* は、成長点付近の細い部位を幼虫が食害していることなどから、その識別は容易である（図2）。新井・日下部（2008）が、リンゴカミキリとセイヨウベニカナメモチについて東京都内での観察例を報告しているように、今後本種も、その植栽頻度の増加にともなう生息域の広がりに注目し、園芸害虫としての認識が必要になるものと考え。また、セイヨウベニカナメモチを食害している個体群は、従来カマツカなどを加害していたものが人為的環境へと移行してきたのか、また苗木とともに他地域から持ち込まれたものなのかは、別の意味で注目する必要があると考える。今後、リンゴカミキリも併せてセイヨウベニカナメモチでの動態を見守っていききたい。また他地域の状況についてもデータの集積が期待される。

末筆ではあるが、本報告をまとめるに当たって採集・加害確認のデータを提供していただいた大木裕（横浜市）、岩田隆太郎（日本大学）の各氏と、



図1. セイヨウベニカナメモチに対するルリカミキリ幼虫の食害痕（神奈川県厚木市，2009年9月15日）。

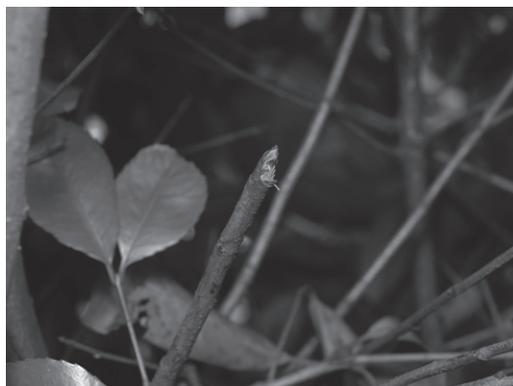


図2. セイヨウベニカナメモチに対するリンゴカミキリ幼虫の食害痕（東京都豊島区，2008年6月24日）。

植物について多くのご教示を賜った高知県立牧野植物園の田中伸幸氏に心からお礼申し上げる。

引用文献

- 新井孝雄・日下部良康，2008. リンゴカミキリがセイヨウベニカナメモチを加害. 月刊むし，(445)：43-44.
 廣田嘉雅・三木三徳・八木正道，2001. 兵庫県のカミキリムシ. 104 pp., 青桐社.
 岩田久仁雄，1980. 昆虫を見つめて五十年 (IV)，リンゴとルリカミキリ. Pp. 215-232. 朝日新聞社.
 加藤敦史・水野弘造・岩田隆太郎，1995. 奈良県のカミキリムシ. 関西甲虫談話会資料 No. 10, 149 pp., 関西甲虫談話会.
 小島圭三・中村慎吾，2011. 日本産カミキリムシ食樹総目録(改訂増補版). 比婆科学教育振興会. 506 pp.
 三宅 武，2009. 大分県のカミキリムシ. 昆虫文献六本脚. 134 pp.
 鈴木正雄，2009. カミキリムシに魅せられて. 山と溪谷社. 128 pp.
 武田雅志，2007. 寄主植物一覧. 日本産カミキリムシ(大林・新里編). Pp. 683-773. 東海大学出版会.

(日下部良康 224-0013 横浜市都筑区すみれが丘 21-12)